



Title	「世紀転換期の日英における移動と衝突―諜報と教育を中心に」報告・論文集 謝辞
Author(s)	橋本, 順光
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/27377
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

謝辞

二〇一二年二月六日、大阪大学待兼山会館にて卓越した大学院拠点形成支援補助金「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」および阪大比較文学会の主催により、「世紀転換期の日英における移動と衝突－諜報と教育を中心に」と題したワークショップを開催いたしました。『大英帝国の女教師』（白澤社、二〇〇八）の著者、堀内真由美氏を迎えてご講演をお願いし、比較文学研究室からは大学院生の、内藤貴夫、小橋玲治、吉田大輔、そして教員の橋本の順で発表を行い、全員で討議を行いました。本報告書は、それらの質疑応答をふまえて発表を増補改訂したものです。ワークショップに際しては、年度末の慌ただしいなか、帝国史の専門家である堀内氏にはご講演をお引き受けただただだけでなく、長時間の発表におつきあいのうえ、貴重なご意見やご講評を賜ることができました。堀内氏には改めてお礼申し上げます。

なお上記ワークショップは「卓越」セミナー第2回（コンフリクトの人文科学セミナー第86回）」として研究集会を申請し、開催および報告書刊行にあたっては、上記補助金の助成を受けました。お一人お一人のお名前は省略させていただきますが、ご協力いただいた関係者の方々、そして当日、活発な討議にご参加くださったすべての方々に、この場を借りて厚く感謝の言葉を申し上げます。本報告書には現代からみてふさわしくない表記や表現が含まれていることがありますが、書かれた当時の状況を分析する以上、改竄することができないため、そのままにしてあることをお断りしておきます。

また発表者の小橋、吉田、内藤は、上記補助金によりリサーチ・アシスタントとして採用されており、本ワークショップはその成果発表を兼ねています。また橋本の発表は、科学研究費補助金基盤C「20世紀初頭のインド旅行記におけるアジア主義と黄禍論の日英比較研究」（研究代表・橋本順光）の成果報告となっていることも付記しておきたいと思います。

末筆ながら、小橋玲治さんは、プログラムの作成から始まり、ポスター製作、会場の手配から当日の進行、報告書の見積もりに編集まで、文字通り最初から最後まで八面六臂の活躍をしてくれました。彼の献身的な協力がなければ、本報告書はおぼつかなかったゆえ、ここに特記の上、心より感謝したいと思います。

橋本順光